

I 「大祭司であるイエスのことを考えなさい（原語：良く見る、熟視する、この方から目と心を離さない）」：1。
これは、すべての秘訣。

A. 私達が、熟視するイエス様は、どんな方。

- ①ヘブル2：18→私達の為に多くの苦しみを体験し、どんな時にも、私達を助ける事が出来る方。
- ②「私たちが告白する、使徒（神より派遣された全権大使。真の神を説き明かし、真の神のことばを語って下さった）であり」：1。
- ③「大祭司（神と人の橋渡しをする方。真の神であり、真の人ともなられたので、理想的な橋渡しの大祭司、罪の償い主）であるイエス」：1。
- ④3：2－6。モーセより偉大なイエス様。モーセは民の立派な指導者だったが、あくまでも、「神の家のために忠実なしもべ」だった。：2、5。また神の家の一員だった。
しかし、イエス様は、神の家とすべてのもの（モーセも含む）を造られた神ご自身。：4。
また、神の家のしもべではなく、神の御子として、神の家の所有者、治める支配者。：6。

B.

1. 私達が一日の中で、一週間の中で良く見つめ、考えているのは、イエス様のことだろうか。それとも
 - ①他の人の欠点（マタイ7：3）
 - ②自分の弱さ
 - ③悩み、困難さにのみ心の目が行っていないだろうか？
2. 日々の静思の時、ディボーションを大切に、毎日、一定の時間を割いて、イエス様のご性質、教え、救いと助けの御業を考え、瞑想しよう。この方を熟視し、この主が支配されて今起きている出来事の意味と価値を思い巡らし、主よ！その意味を教えてくださいと祈ろう。
私達の身に無意味な事は起きない。主はすべてを支配し、益（私達が神に近づく、マイナスをプラスに変えられる）として下さる。

II 「私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです」：6。

スタート以上に、継続して走り、ゴールに達する事が大切。

1. 「神の家」＝神の国、天国に入るまでには、試練の過程がある事を覚えておく（使徒14：22、ヨハネ16：33）。
2. 「確信」。4：16、10：19では、「大胆」と訳されている。
3. 「希望による誇り」＝目に見えない天の御国を信仰により、遥かに望んで喜ぶ。
4. 「私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ち」：14の「確信」は、実体、実在、本質、支柱、土台というニュアンスのある言葉。つまり、思い込み、信じ込みではなく、神の救い、神のみことばという堅固な土台の上に立つ確信。
「キリストにあずかる」とは、キリストの天の御国に入る事。
5. 主は、私達を決して見捨てないお方（ヨハネ6：37）。と同時に、私達の側も、主から離れず、主を信じ続ける事を望んでおられる。
洗礼を受ける人は多くいても、洗礼後も、主を信じ続ける人ばかりではない（マルコ4：16、17）。
私達は皆、弱い。だから、信仰を継続できるように、いつも主に拠り頼もう。
これまで来られたのも、主の憐れみ、恵み！

III 「今日、もし御声を聞くな、あなたがたの心を頑なにしてはならない」：7、8。

1. モーセとイスラエルの家が、キリストとその民の型、模型であるなら、イスラエルの荒野における試みと

不信仰は、新しい神の民、私達クリスチャンへの警告、戒め、教訓。

「これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです」（Ⅰコリント 10：11）。

旧約聖書の価値が、ここにある。神は、良い点だけではなく、神の民が神に逆らった罪の歴史も聖書に記された。それは、彼らの後輩である私達が、それを読み、自分達への警告、教訓とする為。

「かつて書かれたものはすべて、私たちを教えるために書かれました。それは、聖書（神）が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続けるためです」（ローマ 15：4）。

2. 「あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た」：9、
「神が四十年の間、憤っておられたのは、だれに対してですか。罪を犯して、荒野に屍をさらした者たちに対してではありませんか」：17。

イスラエルの民は、荒野で神に反逆し、主への信仰があればすぐにでも約束の地、カナンに入ることができるというチャンスを逃し、四十年も自分たちの罪を負い、放浪しなければならなかった。主への大きな罪は、無駄な時間を増す。そして、その後も、逆らい続けた（民数記 16章、20章）ので、ヨシュアとカレブ以外の民は、「安息の地」カナンに入れなかった。

神は、愛を持って、罪を悔い改め神に立ち返るように語られたが、民は、逆らい続けた。

- 3.：8、13→「頑な」な心とは？

- ①硬い、頑固な、強情な、冷酷な心。つまり、神の下さる何度もの警告に耳を傾けない心。
- ②「彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない」：10。常に迷い、神の道を悟ろうとしない心。
- ③「不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる」：12。
- ④「罪に惑わされて頑なに」なる。：13。罪の声には耳を傾け、惑わされ易い心。
- ⑤「聞いていながら反抗した」：16。神に「従わなかった」：18。御声を聞いていながら、従おうとしない心。

4. 「頑なな心＝神の御声、神の恵みを無視する心」の結果＝

- ①正しい神の聖なる怒りを引き起こした（：8、10、11、15、16）。
- ②神の安息に入れなかった（：11、18、19）。
- ③「生ける神から離れる」：12。神は怒るに遅く、恵み豊かな方であるが、聖く正しい方でもあるので、何度警告を与えても耳を傾けないひどい罪には、正しく怒られる聖なるお方。神は、大きな愛の方と同時に聖なる正しい方！本当は、旧約の民も新約の民も、心から救いたいと願っている素晴らしいお方！主の十字架に愛が示されている。

Ⅳ 私達が守られる為の御言葉。

私達は一人では弱いので、「『今日』と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい」：13。

- 1. 「今日」と言われている間→「またいつか、そのうちに」ではなく、「今日」の御声には「今日」応答して行く。神から与えられた「今日」を神と共に大切に生きる。
- 2. 主の教会の集会から遠ざからないようにし、そこで、互いに励まし合う。
神が、地上に教会を置かれたのは、共に神を礼拝し、共に交わり互いに励まし合う為。
孤立する時、その分、罪に誘惑され易くなる。主から離れやすくなる。
- 3. 一人一人が主に近づき、共に交わり、御言葉で教えられた恵みを分かち合う。主の恵みを数え、感謝し合い、本当の悩み、課題を出し合い、すべてをご存知の全能の神に祈り合う。神のもとに重荷を降ろす。

祈り：私達が、いつも主から目を離さず、互いに励まし合い、主の再臨の日まで守られますように！